

JPS 航空郵趣研究会展 2019

AEROPEX 2019

—飛行郵便試行100年記念—

会期：2019年9月28日(土)～29日(日) 両日共 午前10時30分から午後5時まで
会場：切手の博物館3階 スペース1&2 171-0031 東京都豊島区目白1-4-23

主催：公益財団法人日本郵趣協会 航空郵趣研究会
協力：一般財団法人 日本航空協会

☆☆☆ ご 挨拶 ☆☆☆

本日は、「JPS航空郵趣研究会展2019(AEROPEX2019)—飛行郵便試行100年記念—」にご参観戴き、ありがとうございます。今回は、(一財)日本航空協会の「協力」を戴き、企画展示において内容豊富な資料を展示することができました。また、会員が日頃収集や調査・研究に取り組んでいる航空郵趣関係のマテリアルを駆使して、多彩な発想や多様な切り口から作品化を試みたタイトル19作品の展示をご覧戴き、航空郵趣の楽しさや奥深さを見いだして戴き、皆様からのご指導ご鞭撻を戴くことは、私たちの大きな喜びとするところです。

なお、お一人でも多くの方々に、この機会に航空郵趣研究会の新規会員になって戴き、共に郵趣活動ができることを心より切にお願い申し上げます。

JPS航空郵趣研究会 会員一同

<JPS 航空郵趣研究会展 2019 作品目録>

1. 立川賢一(東京都) JPS航空郵趣研究会の活動記録(1F)

平成6年(1994)発足の「JPS航空部会」の事業を引き継ぎ、平成29年(2017)4月1日から「JPS航空郵趣研究会」として活動を続けています。「JPS航空部会」時代から今日まで26年間の主な活動実績を紹介いたします。

2. 飯野明(東京都)・武内尚人(東京都)・立川賢一(東京都)・鳥海真一(神奈川県) *あいうえお順

. 日本における郵便の航空輸送一試行から制度へー(1F)

今から100年前の大正8年(1919年)、日本において郵便を飛行機で運ぶ試みが、帝国飛行協会の主催、通信省の支援を得て実施された。当時欧米では郵便を飛行機で運ぶことが実用化に向っており、前年には米国で郵便の定期航空輸送が開始されていた。民間航空の育成に努力していた帝国飛行協会は、懸賞金を付けた東京～大阪間の飛行機による郵便輸送競技大会を計画、通信省は記念切手と記念日付印(特印)で支援した。第2回は大正9年、第3回と4回は大正10年にそれぞれ実施された。大正11年11月に開催された第5回大会は、東京～大阪間の定期式郵便輸送競技として延7日間に亘り実施された。

こうした中、民間で定期航空輸送事業への機運が高まり、大正11年から12年にかけて民間航空会社が次々に誕生した。これらの会社は通信省の指導の下、東京～大阪間、大阪～福岡間及び大阪～今治間で試行的な定期郵便輸送を行い、航空郵便制度を創設するための地固めの役割をはたした。

昭和3年10月、通信省は財界とタイアップして国策会社「日本航空輸送株式会社」を設立、同社をして郵便を含む内国幹線の航空輸送事業を独占的に実施させることとした。これに伴い同省は昭和4年3月「航空郵便規則」を制定(4月施行)、新しい航空郵便制度が開始された。

本展示は、日本の航空郵便輸送の試行から制度として確立するまでを、それぞれの時期の実況カバーを中心に、航空郵趣研究会の会員有志のマテリアルで構成したものである。

3. 飯野明(東京都) 第1回郵便飛行競技関係資料(1F)

一般財団法人日本航空協会から写真提供していただいたものを中心にした関係資料により、第1回郵便飛行競技(飛行郵便試行)の参加機体及び操縦士について紹介する。

4. 武内尚人(東京都) 戦前の航空郵便(2F)

今年度の企画展示「日本における郵便の航空輸送一試行から制度まで」に繋げる形で、戦前の航空郵便をまとめました。内地の航空郵便制度は昭和12年8月に速達郵便制度に吸収されましたが、航空郵便輸送はその後も内外地で続けられました。本展示では、戦時中に至るまでの間の航空郵便を、多岐に亘るマテリアルで紹介いたします。

5. 鳥越 徹 (岡山県) 芦ノ湖航空切手 (1F)

日本で最初の航空切手「芦ノ湖航空」が発行されて90年、今回は次の展示をしました。

- ① 銘版つき未使用10枚ブロック、8銭5厘・16銭5厘・33銭
- ② 「みほん」和文タイプ印字 1937年(昭和12)3月、「昭和切手審査委員会」の審査資料として約50部作成
- ③ 8銭5厘単貼り 航空便私製はがき 台湾 → 大阪(天王寺)
- ④ 16銭5厘 紫色「氷川丸」欧文船内郵便局日付印 (C欄「I. J. SEAPOST」) 3倍重量書留小型包装物扱いカバー → アメリカ
- ⑤ 16銭5厘単貼り 航空便私製はがき 台湾 → 小石川(東京) (D欄 高田分室)
- ⑥ 33銭ペア貼り航空便封書 青黒色 欧文櫛型ゴム印 朝鮮(京城) KEIJO C欄「CHOSEN」→ フランス
(満州国成立前で長春の中継印が印 紫色 欧文櫛型日付印 CHANGCHUN C欄「I. J. P. O.」)

6. 鳥越 徹 (岡山県) 立山航空 (銭位) 航空切手 (1F)

立山連峰上空を飛ぶダグラスDC-4型機を描いた航空切手「立山航空 (銭位)」が発行されて68年、今回は次の展示をしました。

- ① 55円 (銭位) 単貼り航空便封書 欧文櫛形印 OSAKAHIGASHI 1952. 3. 24 (発行年) → フィリピン
- ② 75円 (銭位) 欧文櫛型ゴム印 OSAKA 1952. 3. 18 (発行年)
- ③ 75円 (銭位) 欧文櫛型印 KITAHAMA 1952. 6. 20 (発行年)
- ④ 85円 (銭位) 欧文櫛型ゴム印 OSAKA 1952. 4 (発行年)
- ⑤ 85円 (銭位) ペア貼り 航空便封書 紫色 欧文櫛型ゴム印 YOKOHAMA 1952. 4. 29 (発行年) → スイス

7. 立川賢一 (東京都) 日本の航空書簡 (1949~1994) (3F)

航空書簡 (エログラム) は、郵便料金を表す料額印面が印刷してある封筒兼用の便せんで、おもに航空郵便として使用します。日本では、1949年当初は「AIR LETTER」の印字でしたが、1953年から「AEROGRAMME」に書き換えられました。1994年までの航空書簡を年順に揃えました。昨年度の展示の約30%を入れ替えて作品にしました。

8. 鳥海真一 (神奈川県) 平成・普通切手の航空機運送使用例 (1F)

消費税導入、郵便料金改定、郵政民営化。シール式切手と平成時代の普通切手は変化してきた。その使用例のうち航空機で運送された実郵便 (国内では速達便と国際航空便) の手持ちものを集めて紹介した。

9. 鳥海真一 (神奈川県) 郵趣で辿る平成の航空 (1F)

ハイテク技術と省エネで、ジャンボジェット機に変わり大型双発機が空の主役になり、地域の足として短中距離機も急速に普及、LCCも誕生した。国内では関西、中部を始め地方空港の開港も相次いだ平成時代を郵趣マテリアルで辿ってみた。

10. 奥 将雄 (埼玉県) 空港カバーとフレーム切手 (1F)

空港カバーは開港初日印で空港の風景が分かり行った気分になってくれるといいな!!

11. 鳥海真一 (神奈川県) ジャンボジェット機初飛行50年 (2F)

1969年2月9日巨大な旅客機がアメリカの空に飛びたった。大量輸送により空の旅を一変させて以来半世紀。世界の空の主役として活躍してきたボーイング747ジャンボジェット機の歩んだ一端を郵趣マテリアルで辿ってみた。

12. 藤田肇 (茨城県)・立川賢一 (東京都) 航空パイオニア達と飛行機 (2F)

グライダーの飛行実験等を経て、動力により空を飛ぶ飛行機が誕生した。航空パイオニア達は飛行機実用化のため、命をかけた開発努力を積み重ねた。この作品は、藤田氏が蓄積された資料を基に、立川により郵趣アルバムとして再整理を試みている初作である。

13. 飯野 明 (東京都) ビッカーズ・ビミー (2F)

ビッカーズ・ビミーは第1次世界大戦中に爆撃機として開発されたが、使われることなく終戦となり、100年前の1919(大正8)年に大西洋無着陸横断飛行と英豪連絡飛行の二つの大きな飛行を成し遂げた。機名の由来、スミス・スタンプのカバー、周年切手、復元機のカバーなどでビミーの大飛行を展示する。

14. 齊藤勝男 (東京都) AIRBUS A380 (1F)

世界最大の2階建旅客機 AIRBUS A380 初飛行から14年、シンガポール航空を始め14の航空会社が237機が使用されているが大きすぎて採算ベースにのる路線に限られ、今年(2019. 2) A380の生産を2021年で生産中止を発表。A380の初飛行から各地へ運んだカバーを中心に展示してみました。

15. 本田美奈子（群馬県）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 絵手紙の飛行機旅（3F）

「絵手紙の飛行機旅」テーマで初めての挑戦です。中国へ出張の主人の乗った飛行機をフライトレーダーを見て描いて贈った絵手紙が中心。大型絵手紙3mは、追っかけまでした「アクロバットグライダーRed Fox」を展示。絵手紙の恩師の展示会祝いに描いて送ったものです。その他、風景印のあるヒコキ絵手紙を少し展示。

16. 飯野 明（東京都）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 報道資料に見るSST開発（1F）

朝日新聞社航空部で雑誌、新聞で用いられたコンコルド及び米国のSSTの開発に関する報道資料（現在、東京都立産業技術高等専門学校科学技術展示館で所有）を中心に、当時のSSTの開発の一端を展示する。

17. 齊藤勝男（東京都）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 怪鳥コンコルドの飛行（8F）

1969年音速で飛ぶ旅客機として出現したコンコルド、2000年7月にパリ郊外での唯一の墜落事故を起こし飛行停止、改修後旅客収入の低下、機体維持補修費の上昇等、経済性の悪さゆえ2003年全機運航停止。コンコルド全20機の生涯飛行の一部を初飛行から34年間のラストフライトまでをFFCと切手で追ってみました。

18. 樋口 豊（東京都）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ コンコルドー誕生から終焉までー（3F）

英・仏共同開発のSST（超音速旅客機）として、先駆的な役割を果たしたコンコルドの誕生（1969年）から、終焉（1979年）までの10年間の物語をオープン展スタイルで綴りました。

19. 伊藤裕介（千葉県）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ オリンピック関連の航空郵便（1F）

来年夏に1964年に次いで2回目の夏季オリンピックが東京で開催されることを記念して、過去に開催された大会のオリンピックに関連した航空郵便を紹介します。

豊富に存在するマテリアルの中から第1章では東京大会に関する航空郵便を数点、第2章では第10回大会から第31回について大会ごとに1点の航空郵便を紹介します。

20. 伊藤裕介（千葉県）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ツェッペリン飛行船（4F）

飛行船といえば、ドイツのツェッペリン伯爵が開発した「ツェッペリン飛行船」が最も有名です。

本作品では、失敗を重ねながら建造した初期、客船・軍用として活躍した成長期、世界一周をした「グラーフ・ツェッペリン号」、事故により「悲劇の飛行船」と呼ばれた「ヒンデンブルク号」、事故による運航中止後、近年復活した「ツェッペリンNT」について、紹介します。